

指導例 5

1 主題名 目標に向かって

2 資料名 「ゆきおの挑戦」

3 ねらい 高い目標を立て、希望をもって、困難や失敗にくじけず努力しようとする態度を養う。
(1-2) 希望、勇気・不とう不屈)

4 主題について

(1) 価値について

ある目標を立て、それを実現しようとするれば、多かれ少なかれ困難や失敗にぶつかるものである。それを乗り越えてこそ、はじめて目標が達成されるのであり、自分の希望が実現するのである。そのためには、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、目標に向かって着実に前進しようとする強い意志と実行力が必要である。

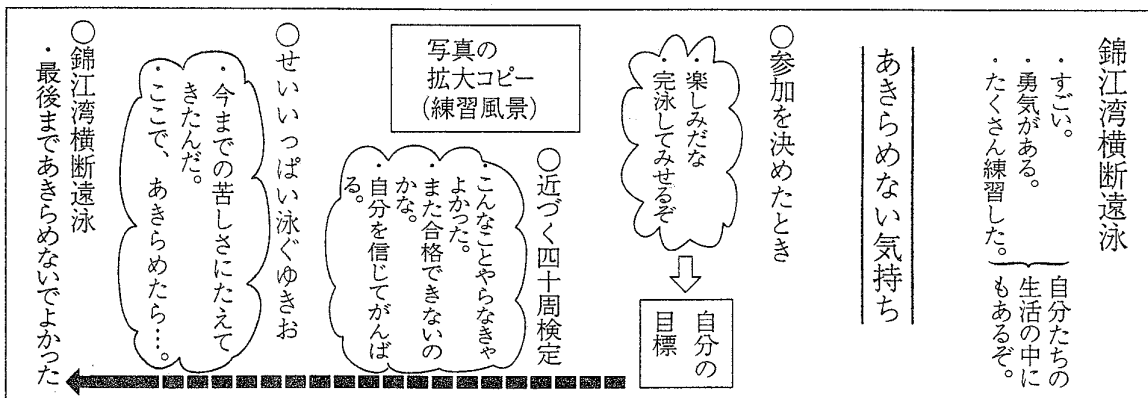
(2) 児童の実態

小学校高学年の子供たちは、それぞれに高い理想を追い求める時期である。しかしながら、うまくいかないことがあったり、自分だけが下手であるなど、体裁が悪いことがあると簡単に逃げ出したり、あきらめたりすることも少なくない。このような子供たちに自分の理想・目標の実現に向けて、途中であきらめずねばり強く努力しようとする態度を養うことは意義深いことである。

(3) 資料について

本資料は、鹿児島市立松原小学校で毎年4年生以上の希望者を対象に行われている錦江湾横断遠泳に向けての活動を素材にした話である。主人公のゆきおは、やる気十分で自分の目標をもって参加したのにもかかわらず、友達より遅れている立場やうまくいかない状況などから心が揺れてしまう。しかし、あきらめずにひたすら努力をすることによって目標を達成する。このような事象は、子供たちの生活の中に大なり小なり数多く存在するものである。ゆきおの心の揺れや達成したときの喜びへの共感を通して、自分の目標の実現に向けての、途中であきらめずにねばり強く努力することの大切さを再考させるのに適した資料である。

5 板書計画



(5) 参考文献

「鹿児島市立松原小学校錦江湾横断遠泳30周年記念誌」

鹿児島市立松原小学校水泳同好会 編

5 展開例

過程	主な学習活動（・子供の意識）	指導上の留意点
導 入	<p>1 錦江湾横断遠泳について知り，感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すごい。勇気がある。 ・ たくさん練習したと思う。 ・ どうすればここまで泳げるようになるのだろうか。 ・ ほくも負けないくらいがんばっていることがあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 錦江湾横断遠泳について知ることでより興味を高める。 ・ 約4 kmを2時間かけて泳ぐ。 ・ 5月初旬から約2か月の夕方5時から6時30分までの毎日の練習（週末に検定・日曜日は休み） ・ 4年生以上の希望者で毎年100名以上の子供たちが挑戦する。 ・ 初挑戦の子供たちのほとんどが最初は25mも泳げない。
展 開	<p>2 資料「ゆきおの挑戦」を読み，主人公ゆきおの最後まであきらめない心について話し合う。</p> <p>(1) 錦江湾横断遠泳の活動に参加しようと心に決めたときのゆきおはどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ よし，絶対泳ぎ切ってみせるぞ。 <p>(2) 検定になかなか合格できずに，40周検定が近づいてきたとき，ゆきおはどんな気持ちになったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水は冷たいし，こんなことならやめとけばよかったかな。 ・ 何だか自分だけが合格できないみたいだ。はずかしいな。 ・ とにかく自分を信じてがんばるぞ。 ・ 結果を気にせずがんばるぞ。 <p>(3) 最後の40周検定，涙が出そうなのをこらえて精一杯泳いだのは，どんな気持ちからか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの苦しさに耐えてきたのは何だったのか。 ・ ここであきらめたら台無しだ。 ・ とにかく泳ぎ切ってみせるぞ。 ・ 何としても錦江湾に行くんだ。 <p>(4) 錦江湾横断遠泳をしながら，ゆきおはどんなことを考えていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最後まであきらめなくてよかった。 ・ 最高の気分だな。 ・ 自分もたくましくなったな。 ・ 目標を達成できたぞ。 <p>3 目標をもってくじけず最後までやり遂げた経験について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ やる気十分で参加しようとするのを共感的にとらえさせる。 ○ なかなかうまく泳げないつらさや周りがどんどん合格していく中，ゆきおの揺れ動く気持ちについて考えさせる。 ○ 自分のこれまでの努力や目標に対する思いをもう一度思い直し，ひたむきに泳ぐゆきおの気持ちを把握させる。 ○ ゴールしたときの気持ちについても考えさせる。 ○ 一度決めた目標をやり遂げた達成感を味わわせる。 ○ めあてを持ち最後まで努力してやり遂げた経験や苦労したときの心情を発表させる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○ 学級の事例の紹介等。

■ 錦江湾横断遠泳の概要

鹿児島市立松原小学校の錦江湾横断遠泳は、桜島の小池海岸から磯浜までの約4 km（実泳は5 km）に挑戦するものである。4 kmという長距離も勿論だが、波・風・潮の流れという海の自然にわずか10歳前後の子供たち約100名が集団で挑戦していく。だから、その成就のためには、緻密な計画と継続的な鍛練が欠かせない。

【水泳同好会の結成】

錦江湾横断遠泳の推進母体は、5月初め、錦江湾横断遠泳に挑戦を希望する4年生以上の子供の保護者で結成される水泳同好会である。この同好会が、松原小学校の教師に指導を依頼する。従って、表面上は学校が主体者ではない。しかし実質は、4年生以上の多くの子供がこの同好会に加入しており、学校では、日常の教育活動でも常にこの取り組みに配慮し、全面的な支援態勢を取っている。

【練習開始】

練習はまだ水が冷たい5月の連休明けから始まる。期間は本遠泳までの約三カ月近くである。まず、二回完泳者を青帽、一回完泳者を黄帽、未完泳者（初挑戦）を赤帽に分けて練習をし始める。赤帽の中には調子よく泳げる子もいくらかはいるが、ほとんどが初挑戦の赤帽の四年生で、5 mさえ泳げない子が多い。したがって、練習初期は赤帽の子供たちに指導の重点が置かれる。泳法はかえる足の平泳ぎである。この時、青・黄帽の5・6年生が心強い指導者となる。互いに励まし合う人間関係はこの頃からできあがる。

【検定】

練習開始から3周目を終える頃から検定が始まる。プール1周70 m。二列になって隊列を乱さず決められたペースで泳ぐ。その周回数は5周から始まり、毎週末に10周・20周・30周・40周と行われる。このときは、保護者も学校職員も総出で応援する。合格者が増えてくるのは、30周検定からである。最終的に40周検定に合格することが、海に行ける条件となる。もちろん、40周検定に合格できない子供もいる。あとひとがんばりの子、最後のチャンスにかける6年生もいる。そんな思いに応えるために、1週間後に40周再検定がある。これが正真正銘のラストチャンスとなる。

【小遠泳】

プールで40周検定に合格すると、遠泳に参加できる。2回計画されており、磯浜近辺の海を約2 km泳ぐ。海に慣れること、避難訓練が主目的であるが「海での検定」の要素も含んでおり、ここで不合格となる子供が出てくることがある。

【本遠泳（錦江湾横断遠泳）】

潮の動きの少ない小潮の日を選んで実施。校医による健康診断を受け、いよいよ泳ぎ出す。300 mにも及ぶ隊列が磯をめぐって泳ぐ。一人一人の子供に、必ず保護者が監視者として船に乗船し絶えず見守り応援をする。磯では、保護者や地域の人々、学校職員、先輩たちが待ち受ける。ゆっくりとゴールし砂浜を踏みしめる子供たちには、大願を成し遂げた満足感が広がる。磯浜にやり遂げた者、見守った者の感動が溢れる瞬間である。実際に横断にかかる時間は、平均2時間である。

錦江湾横断遠泳という大業を成し遂げられるのは、子供や指導者（教師）、同好会役員、保護者の親密な心の支え合いがあるからであろう。未知の世界・自己の可能性への長期間の挑戦を通して子供たちは、あきらめず頑張ることの喜び、やり遂げた自信、異年齢で励まし合う強い心の絆等を身につけ、着実に新しい自己を実現していく。この伝統的な行事も1999年をもって第34回となる。